

業務の新聞

第11号 平成29年 12月 26日

安全第一！

山陽新幹線・東海道新幹線で「台車の破断？」という事態が大きく報じられました。乗務員や車両検査員が「停車させ検査すべき」と“指令”に要請したにもかかわらず、“指令”は「問題なし」として運転継続を指示したとされています。

京浜東北線では、施工工事後の検査を怠り、架線支障が生じ、多くのお客様に多大なご迷惑をお掛けしてしまいました。

JR 各社も他の鉄道会社も「安全第一」を掲げ、法令・規程やマニュアルに沿って業務を担っています。

では、どうして「現場の声は無視された」「検査は行われなかった」のでしょうか？

規程やマニュアルの不備、技術継承の未成熟、運行優先的意識の存在、現実認識の欠落など、今後の検証の中で様々な明らかになると思います。

私たちは、「他会社のこと」「他線区のこと」と流すことなく、命と安全を守るために学ばなければなりません。そして、躊躇なく列車を止める勇気を持たなければなりません。

地本は、各地本と連携をはかり、原因の究明と再発防止の取り組みを進めます。

組合員のみなさん！

あなたの職場で「気がかり」はありませんか？いつのまにか「形骸化・合理化」している作業や取扱いはありませんか？些細なことでもかまいません、地本までお知らせください。

この会社を“つぶす”わけにはいきません。正すところは正し、当たり前のことを当たり前のように愚直にシッカリ任務を果たしましょう。

安全第一！

他地本では、「架線支障」に関して“緊急申し入れ”行いました。

残念ながら「支社外の案件」「時間がかかる」という言葉が会社経営側からあったそうです。

『大丈夫ですか？』

労働組合が現場で働く仲間たちの思いを“申し入れ”という形にしたものをいとも簡単に片づけてしまう会社経営側の姿勢は、「残念」を乗り越えて「心配」になってしまいます。この会社経営陣の姿勢に『安全』を妨げる要因が見え隠れしているように感じます。『本当に大丈夫ですか？』

東京支社の中には、多くの駅や鉄道施設・設備があります。“国鉄時代”からのモノも多々あります。最新のAI や通信・信号設備などとの“現物合わせ”というような形もあるのではないのでしょうか？

関係機関と真摯に意見交換を行い、安全を文字通り第一に取り組みを進めます。

安全第一！

沿線で「うんてんしさ～ん！」「しゃしょうさ～ん！」とかわいい鉄道ファンから手を振ってもらいます。

子供たちの笑顔にホッコリとし、励まされます。この子供たちの笑顔を裏切るわけには行きません。

安全・安心・正確をストロングポイントにして「人にやさしい」サービスを提供していくことが、会社の内外から求められています。

そのためにも、職務遂行に必要な条件や環境整備を整えていかなければなりません。上意下達より職場からのビルドアップが今必要だと考えます。